

はじめに

将来の予測が難しい社会の中でも伝統や文化に立脚した広い視野をもち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子どもたちに育むため、学習指導要領の改訂が進められています。子どもたちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方について検討し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善が求められています。子どもたちが社会において自立的に生きる基礎を培うかけがえのない教科である家庭科においても次のようなことが提案されています。

<目標>

実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図りそれらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見出して課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成する。

<身に付けさせたい資質・能力>

「知識・技能」日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能
「思考力・判断力・表現力等」日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力
「学びに向かう力・人間性等」家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度

<学びの過程>

生活の課題発見、解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善

<指導内容の改善>

- ① 系統性の明確化：「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」（小中共通）
- ② 学習対象の明確化：空間軸（家庭・地域・社会）
時間軸（これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活）
- ③ 学習過程を踏まえた改善：生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善する一連の過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成に係る内容について整理する。

<主体的・対話的で深い学び>

主体的な学び： 現在及び生涯を見通した生活の課題について、解決の見通しをもち、課題の発見や解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って、次の学習に主体的に取り組む態度を育む学び

対話的な学び： 他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたり、他者と協働したりするなど、自らの考えを広げ深める学び

深い学び： 児童が、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び

各学校では、教育改革の流れを見据えながら基礎・基本の定着と活用を図る指導計画の改善をはじめ、「できる・わかる・考える」授業づくり、自己の成長を実感し、子どもが伸びる学習評価などについて研究を進めていることと思います。このような中、愛媛県内各支部から寄せられたすばらしい研究実践を、『小学校家庭科実践集録第53号』としてまとめることができました。本集録に収められた研究実践から様々な工夫を学び、各学校の実態に応じてさらに改善を加えながら、日々の指導に生かしていただきたいと思います。

最後になりましたが、本集録の作成に当たりご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

平成29年3月

愛媛県教育研究協議会 技術・家庭委員会
小学校部会委員長 辻井 芽美子